

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム紫苑経営理念 「愛ある施設 心ある介護」をグループホーム紫苑施設憲章としてまとめている。	○ 施設の理念を見直し、住み慣れた地域で安心した暮らしができるよう、入居者と地域の関係を念頭にいれ、柔軟性のある事業所作り。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時等に、スタッフ全員で読み上げている。	○ ミーティングや申し送り、関わりの振り返りの時にも理念に必ず触れ確認し合っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2ヶ月に一回、運営推進会議を行い、理念を理解して頂けるよう努めている。	○ 地域行事や外出、散歩などにより日常的に地域の人達と交流を持ち、紫苑への理解を深める。広報誌制作継続。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者をお連れした際の散歩時や、職員の出勤、退勤時に挨拶をする。	○ 見守り隊や地域行事（老人会、自治会等）にできるだけ参加し、交流を持つ。挨拶の継続、いつでも見学をして頂く。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園、老人会、自治会等の行事や子供見守り隊に積極的に参加。地域の行事や祭りにも参加。散歩時等地域の人との挨拶や交流に努める。	○ 地域との継続的な関わりにより、地域により密着した施設となるよう努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者が作った作品等を地域の交流時にプレゼントしたりしている。	○	今後も意識づくりから自己啓発をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自らの取組みを省みる機会、第三者の視点と指摘を貴重なご意見と捉え、時代の流れに沿える事業所、サービスの向上に前向きである事業所として活用している。	○	外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告し合い意見の交換をしてサービスの向上に活かしている。	○	会議への出席者を増やせるよう広報をより積極的にし、会議での意見がより活発化し、サービスの質の改善に繋がられるようにする。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回、同区グループホーム連絡会に参加し、サービスの向上に努めている。	○	市の方針に沿いながらサービスの質が向上するように取り組む。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料は収集しいつでも閲覧可能にしている。施設内外の研修の機会を活用し、知識の習得に努めている。	○	新しい知識の収集に努め、正確な知識を全員で習得する。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連マニュアルを作成し、いつでも閲覧可能。施設内外の研修機会を通じ知識や意識の再確認している。	○	学習機会を得ることにより職員の意識を高める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時には十分に家族と話し合っている。	○	丁寧な対応、その場に立った考え方に努め、常日頃より不安や疑問を解決しやすい関係づくりを心掛ける。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者とコミュニケーションを計り、意見、不満、苦情があればその都度話し合いを持ち、早期解決に向けて取り組んでいる。	○	施設長に全てを報告し運営に反映させている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1回は面会して頂けるようお話し、利用者の個人ケースやお小遣い帖にサインを頂いている。又、利用者の健康状態等変化のあった時はその都度連絡をとる。行事予定等毎月送付も行う。	○	面会が少ない家族様には常に電話連絡をとり報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会者名簿に意見等を書いて頂いているが、書いておられない家族様が多いため、面会や電話連絡の時に常に問いかけている。	○	日頃より家族様等が気軽に意見を言える雰囲気づくりに努める。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、職員全体会議、調整会議又は日々の仕事の中で話し合える場を作っている。	○	一人ひとりの気づきや取組みを認め合える職場づくりにより成長していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて勤務時間の調整をしている。	○	利用者の急変時、家族、医療機関への連絡を行い、必要に応じて職員の配置を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本部からの異動が主なので、利用者の情報を得てから支援にあっているため、利用者に対応することができる。	○	異動前に利用者きちんと紹介し何度か訪問を行い、利用者の方との接点を持つ。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に出席できる機会があり、研修報告書としてあげ、全職員が目を通し学びを共有している。	○	研修内容を共有した上で、仕事に活用できるようミーティングや会議の機会を持つ。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回(第3火曜日)に区内のグループホーム会議に出席、又、年に2回市内全体の会議に出席、情報交換や学びの機会を持つ。	○	他グループホームの取組みや運営方法を参考に紫苑の成長を目指す。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者と職員が同じ職場で働いているため、意見を直接聞きミーティングを行い、すぐ改善できるように取り組んでいる。	○	働きやすい環境づくりのため今後も相談し、改善に努める。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設長が朝礼、終礼に必ず参加し職員に声かけすることにより、コミュニケーションが取れており、職員の向上心に繋がっている。	○	向上心維持のため働きやすくストレスのあまりない職場を作る。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の相談があると見学に来て頂くことを勧め、来園時には本人様と十分に話し合う時間を設けている。	○ いつでも話しやすい雰囲気づくりに努める。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	”理解したい”姿勢を表に出し、こちらから関わっていくよう努めている。 見学の機会活用。	○ 信頼して頂けるよう、話がしやすい雰囲気、傾聴の姿勢をとる。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族との話のないようによっては、総合的な判断をしその方に合ったサービス利用を進めている。	○ 制度や他事業の内容把握、情報収集する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当ホームを理解して頂く為に現在入所されている方との接点を試みたり、実際に体験して頂く為に体験入所を勧めている。	○ 実際に数名の方が体験入所されている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考え方を職員が共有して、支援する側とされる側という意識を持たず、お互いが支えあいながら、穏やかな生活ができるように取り組んでいる。	○ 遠慮されている面もあり、第2の家族という身近で気軽な存在になる関係づくりの工夫が必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と連絡を取り合い、共に支え合う関係を築いていくように努力している。	○	面会に来られた時、時間をかけて家族様と十分に話し合っている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係が今まで以上に良い関係に築いていけるように取り組んでいる。	○	安心した生活を両者が送れるよう関わっていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊、面会が自由にできる事を入居時、本人と家族に伝えて関係が途切れないようにしている。	○	本人の思いを大切に支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関わりの中で、トラブルが生じた時職員が中に入り早期解決に努めている。	○	利用者間同士の交流を見守り、トラブルが生じた際には的確に対応する。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームの生活が不可能になった時、関連施設への紹介とその方の方向性が決まるまでは付き合いを大切にしている。	○	本部のショートステイ又は入所された場合は、連絡を密に取りながら家族と本人を支えていける努力をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声をかけ、思いや暮らし方の希望、意向を明確に把握できるよう努めている。	○ 意思疎通の困難な方には、日々の行動や表情からくみ取りながら、家族や関係者から情報を得るようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ケースにその方の生活歴等をファイルし職員は必要に応じ目を通し把握可能。	○ 入居前にその方が受けられていたサービスの内容によって訪問先を検討し、情報を得ている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの状態を把握する為に記録をしている。	○ 介護日誌又は個人ケースに記録し、全職員が総合的に把握できるようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に想いや意見を聞き反映させるように介護計画を作成している。 (サービス担当者会議にて検討)	○ ご本人に関わる人々の意見やアイデアを大切に、ご本人にとって最善となるように介護計画を立てることを目指す。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	情報を確認し本人や家族の要望も取り入れながら、状態が変化した際は見直し検討している。	○ 状態が変化した時は速やかに上司に報告し、介護計画の見直しをしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを密に行いながら情報を共有して話し合っている。	○	その方の変化に気が付けるよう関係者全員の関わり方や気づき等を日頃より話し合えるようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望がある度に検討し、可能な限り応じ対応できるよう努める。	○	医療以外の要望に対してはその都度検討していく。地域の老人会、自治会への働きかけをしていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の自治会、老人会の方々と連携をとりながら支援している。	○	今後は、ボランティア、教育機関等と協力しながら支援できる様取り組みたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	意向や必要性に応じて、本部の事業所の関係者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援ができるかどうか検討している。	○	他のサービスの利用について可能な限り、希望があれば検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本部の支援センターと常に連携を取り合い協働している。	○	本部以外の包括支援センターと協力ができるよう取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族に説明し、希望するかかりつけ医の確認をしている。受診や通院は希望に応じて対応している。	○	ホームDrがおられる事を説明し、今までのかかりつけ医を継続されるか当Drwを主治医とされるか選んで頂く。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ、認知症専門HP受診、通院を行っている。	○	主治医、家族と相談しながら対応を検討している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内の看護職と連携、協力体制をとっている。	○	本部の看護師が週1回利用者の観察を行っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に面会。その際、看護師やHP関係者に状態を尋ねている。 早期退院を働きかける。	○	病院のケースワーカーと常に連絡を取っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	対応し得るケア内容について説明を入居時に行っている。	○	常に家族、医師、看護師を交えて話し合いを行っている。今後は重度化や終末に対する対応指針を定めたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	マニュアルを作り経過を細かく把握できるようにしている。 Dr、看護師、家族と連絡	○	チームでの支援ができるよう、日頃より職員間や関係者間の関係を築いておく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の所へ変わられる時ケア関係者間で十分な話し合いや、情報交換を行い本人の不安を解消できるよう努めている。	○	移動されても関係者に連絡し、家族本人とのよりよい関係を保つよう努力している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員がプライバシー確保について常に確認し、1人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしない事を徹底している。	○	情報に関しては、漏れのないよう対策を一人ひとり心がけ実践していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に利用者とは話し合い、思いを聞き支援にあたっている。	○	自己決定が困難な方には希望や思いを表せるように働きかける。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながらその時々本人の気持ちを尊重し支援を行っている。	○	買い物や散歩等の外出を本人が希望すれば速やかに対応できるよう考慮している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホームに月1回美容店が訪問している。	○	好みに応じられるよう努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等を利用者と共に行い、同テーブルで利用者と職員が同じものを一緒に楽しく食事している。	○	変化ある状況に対応できるよう、常に観察を怠らず食事を楽しんで頂けるよう努める。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	これまでの生活習慣を大切に、希望に応じ対応している。	○	入居後も常に本人に確認しながら支援している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表で1人ひとりの記録をしている。	○	排泄パターンを把握し、オムツ外しに取り組んでいる。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望や体調を確認して入っている。	○	朝風呂を現在希望され入っておられるが、夜間入浴は現在希望される方はいないが、希望があれば対応できるようにする。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	習慣や状況に応じて自由にして頂いている。	○	状況を伝えられない方は、顔色や表情を見ながらその時々状況で判断している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に、本人と家族から生活歴や希望を聞いて支援にとりいれている。	○	利用者と相談しながら得意な事を発揮してもらえよう取組みをしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、本人と家族を交えて自己管理をされるか確認している。	○	自己管理できる方は、本人持ちとしてできるだけ本人の気持ちを大切にする。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員体制にもよるが、天気の良い日など散歩や外出のお誘いをしている。	○	外の空気を吸える事を日課として、気分が晴れるよう支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望があればその都度外出できるように支援している。	○	職員が付き添いできない場合は家族に連絡し相談している。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1F玄関に電話を設置し希望があればいつでも使用して頂ける。	○	本人の希望には可能な限り応じ、又、代替にて納得して頂けるよう努める。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来て頂けるよう声かけを行っている。	○	来て頂きやすい雰囲気づくりして、家族との協力を維持していく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	”身体拘束ゼロ”に同意、賛同している。 マニュアルを作りやむを得ない場合についても指針あり。	○	危険な場面であっても、何故かの原因を探り、拘束しない別の方法を考えていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	年に1回はアンケート調査をしているが施錠を希望されている。本人が外出して戻ってこられる方には自由にカギを開けて出入りして頂いている。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	24時間体制で常時保安をし安全確認をしている。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	危険物の所在の確認を常に行っている。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	再発防止の会議を行っている。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	応急手当や初期的な対応は本部の看護師より指導を受けている。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	訓練内容や日頃の人や物への関わりを工夫、見直すことが必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その方らしい生活を送って頂く上で、起こり得るリスクを説明した上で、納得、了承を得、安全に配慮しながら生活を送って頂いている。	○	やむお得ず起こり得るリスクについては、家族と十分話し合い居室移動を行っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタル測定や、日常の観察により変化に気付くよう努めている。又、職員間の連絡、相談、情報交換も蜜に取るよう心掛けている。	○	体調変化の早期発見に心掛けている。必要があればホームDrへ連絡している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケース、カルテ、服薬管理マニュアルに一人ひとりが服用している薬の紹介を挟み、いつでも見直せるようにしている。	○	Drと相談しながら、利用者にとって最も扱いやすい工夫と効果に配慮していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や適度の運動を心がけ予防に取り組んでいる。	○	サービス担当者会議で検討し、本人に負担がない様その時の状況に合わせて取り組んでいる。排泄を促すオヤツ内容にしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に利用者に声かけし口腔内の清潔保持に努めている。	○	朝昼は声かけしうがいをして頂いている。夕食後は義歯を洗って頂き、口腔内の状態を確認して頂いている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取チェック表に記録し情報を共有している。午前、午後、就寝時水分補給をしている。	○	食事量の少ない方にはその方の好み、馴染みの物を別メニューで提供している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	本部の研修に参加し、予防や対応の取り決めをしている。	○	常日頃より知識習得に努め、予防に力を注いでいきたい。ホームDrに常に相談している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に本部より新しい食材が届いて調理している。	○	衛生チェック表を作成し管理に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木等で家庭的な雰囲気づくりに工夫している。	○	玄関周りの掃除や植木の水やり等をしながら、清潔を保ち通行人の方へ声かけしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所を対面にし、食器洗いや料理をする時、利用者の方に声かけしながら支援している。	○	家族が来られた時も参加して頂いている。行事等に季節感を取り入れたり、食堂に手作りカレンダーを貼っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごして頂き、気の合った利用者同士で過ごせるような居場所が作れる様声かけしている。	○	生活空間を作る中、近づき易い雰囲気を大切に、空間を活用して頂くようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	在宅でのその方のお部屋の再現をお願いし、使い 慣れた物や好みの物を持って来て頂いている。	○	施設での生活であるが、私物など大切な物に囲ま れ、安心できる環境の中生活して頂けるようにす る。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	共有の空調は温度調節を職員が行っている。	○	個人の居室は臭いや換気に配慮し、温度調節は利 用者と話し合い適温に努めている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下、トイレに手すりを取り付け、安全な環境づ くりを心掛けている。	○	入浴時安全な施設を整えているが、その方の機能 を低下させない為の工夫をしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	現状を維持できるように一人ひとりの環境づく りを行っている。	○	居室内での自立支援を促し、共有場所においても その方にできることをして頂いている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	四季折々の風景を楽しんで頂けるように声かけを し季節感を味わって頂いている。	○	建物の外回りを散歩して季節を感じて頂く。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・スタッフ一人ひとりが仕事を楽しむをモットーに仕事に取り組んでいる。
- ・入居者に「生きがい」を感じて頂けるよう「何らかの役割」を持って頂いている。
- ・入居者の方の一日の生活リズムに合わせた支援を行っている。
- ・季節や天候を感じられるよう、日々声かけを行っている。